

情報発信等戦略の期間

令和4年度～令和7年度まで

※ 令和7年度までのうち、対象市町村等が設定

情報発信等戦略

交付金を用いて福島定住等緊急支援（地域魅力向上・発信支援）事業を実施し、風評払拭に取り組むにあたり、以下を記載してください。

※既存戦略等に上記に該当する箇所等があれば、添付によって記載を省略することが可能です。

① 情報発信の内容

国指定史跡向羽黒山城跡にまつわる「城と人々のストーリー」を発信していく。

人は、史跡や物に魅せられるのではない。その人たちが生きた証、ストーリーに共感するから引き付けられるのである。

目まぐるしく状況が変わる戦国時代にあって、この堅固な山城が、この場所に、どんな意義、役割をもって存在していたのか？歴代城主、蘆名盛氏、伊達政宗、蒲生氏郷、上杉景勝（直江兼続）は、なぜこの山城を強固な城にしていったのかを掘り下げていく。堅牢化の裏には、殺伐とした世にあっても、大事な家族や領民を守るという意思が存在し、彼らはそれぞれ「最強の山城」を目指したのではないだろうか？その想いは、現代にも通じており、山城にはせる人々の想いを専用サイトによって紹介していくことで、万人受けせずとも、より多くの歴史ファンを取り込んでいきたい。

また、コエーテクモゲームスさんの人気ゲーム「信長の野望」と提携し、キャラクターや音楽を使用することでゲームファンへの強烈的なアピールを狙う。さらに、歴史系YouTuber「いつかやる」さんとも提携し、若年層にも分かりやすい動画解説を盛り込み、見せ方にも工夫を凝らしていく。他にもガイドを伴わずともルートを踏破できるGPSによる音声ガイドアプリ構築する等、実際に訪れて、登ってみたいくなるような情報発信を段階的に仕掛けていく。

訪問客が増えていくことで、休憩所や地元のお土産、食べ物等、より一層のおもてなしの需要が高まることが予想され、地域一帯の取組が必要になってくる。現在も受け入れ体制がないわけではないが、より一層の受け皿作りに地域を挙げて取り組んでいく姿勢も紹介していきたい。

最初は一見の観光客であっても、二度三度訪れてみたいくなるような魅力を発信していくことで、自腹を切っても行きたいという、会津美里町の向羽黒山城の「ファン」を獲得していきたい。

「人は城」と、かの武田信玄がいったように、城は人の集まる場所であり、コミュニティの場であった。会津美里町も、向羽黒山城を中心として、かつてのにぎわいを違った形で再現していくことも新たなストーリーとして全国に発信していきたい。

② 会津美里町の情報発信体制

民間の一般社団法人会津美里町観光協会（以下「観光協会」）と会津美里町産業振興課商工観光係が同等で主体となり、観光振興及び風評払拭にむけて情報発信を実施していく。観光協会が、情報発信の実働部隊として機能し、向羽黒山城を含めた観光情報を、自らのホームページ、インスタグラムを中心にメディアミックスしながら発信していく。

③ 情報発信等の戦略目標

本事業の戦略目標は、「人気ゲームを介した向羽黒山城の魅力を発信することで、新たな誘客に結びつけ、おもてなし需要を喚起し、地域の振興につなげる」である。

【令和7年までの数値目標】

- A 向羽黒山城跡、入場者数を年間2,000人
- B 御城印状の累計売上数 5,000枚
- C 向羽黒山城専用サイト訪問者数、累計5,000人
- D 向羽黒山城跡利活用団体の創出 1団体
- E 向羽黒山城跡関連経済効果、今よりも1,000万円増（協力事業者に売上の推移観察を要請）

④ 全体工程表

【行程表】 別紙1参照

- R4 4-1向羽黒山城専用サイト 4-2山城案内アプリの試験運用
- R5 5-1天空カフェ、盛氏が見た会津盆地
5-2スタンプラリーのための武将オリジナル将棋駒、御状印作成
- R6 6-1観光大使、山城名刺
- R7 7-1山城シンポジウム

【対象市町村等が独自に行う情報発信等に関する取組との連携】

上記の全ての取組を、会津美里町と一般社団法人会津美里町観光協会のHPで取り上げ、相互にリンクさせる。また、町広報で特集を組んで町民にもこの向羽黒山城プロジェクトを周知していく。